



# 登録医ニュース

## 絆きずな

登録医療機関（令和3年2月末現在）

県内 174 施設 198 名の先生方にご登録いただいております。



## ご挨拶

あさくら とおる

院長 朝倉 徹

登録医の皆様、平素より当院が大変お世話になっております。

昨年来 Covid-19 の蔓延により、社会の生活様式が一変しました。いわゆるソーシャルディスタンスということを考慮して移動が制限され、学会などの集会が Web 形式に移行しております。都市部では緊急事態宣言が発令され、移動の制限もされて新規感染者が減少し、逼迫していた医療提供体制もこのところ小康状態となっているようです。仙台市内でも 200 床余り用意したベッドが使用率 20% 以下まで下がってきています。

さて Covid-19 に抗するために開発された米国ファイザー製ワクチン：コミナティの接種が始まりました。2 月中旬より厚労省管轄の病院群で治験を兼ねた先行接種が始まり、当院でも 19 日より接種を行っております。本製剤は副反応の発症率が高いという特徴はあるものの今のところ重大な症状発生は見られていないようです。問題はベルギーで生産されている製品であることから EU の輸出制限がかかっており、4 月以降始まるとされる高齢者を含めた一般国民への接種に向けて、必要ワクチン量の確保の見通しがたっていないことです。現在宮城県や仙台市ではワクチン接種の場所やワクチン搬送について医師会などの協力もあって接種体制を整えておりますが、いつの段階でワクチンが搬送、供給されるのか不透明のようです。ファイザー社以外のワクチンも承認に向けて動いているようですが、アデノウィルスベクターを利用したワクチンは翌年以降の効果は望めないため、国民の間で接種ワクチンの選択に不平等感が広がらないか心配になってきます。

## 【健診センターより 婦人科検診のお知らせ】

健康管理センター 管理課 佐藤はるひ

健康管理センターでは、令和2年10月より子宮頸がん検査を再開いたしました。

かつては大学病院医師の応援を受け実施しておりましたが、受診者数減少等により平成26年に休止となりました。その後、大変多くの方々から再開を望むご意見をいただきまして、当センターで再開に向けた検討を進め、そしてこの度、三山友里恵先生（産婦人科専門医）の招聘が決定し、全スタッフ一同で知恵を絞り10月1日にスタートいたしました。本年4月からは、各健康保険組合や協会けんぽの受診者様にもご案内を行い、より多くの皆様にご受診して頂ける環境を整える予定です。

当センターでは、『いつでも希望どおりの健診を実施する健康管理センター』を目指し、末永く皆様の健康管理の一助になるよう努めてまいります。

健診センター 022-306-1721 (直通)

**スプリングキャンペーン**  
**☆子宮頸がん検診のお知らせ☆**

健診センターでは3月までお得な子宮頸がん検診を実施中♪

春に向けて何かと忙しくなるこの季節、だからこそ今、自分へ安心をプレゼントしてはいかがでしょうか

- 実施期間 令和3年2月16日(水)～3月25日(木)
- 受付時間 8時30分～10時00分
- 実施日 毎週火曜日・木曜日（祝日除く）
- 料金 3,300円(税込)

完全予約制なので待ち時間なし  
 医師・看護師・女性事務スタッフが検診・検体採・エコー検査をセットで実施いたします。

※このキャンペーンもご利用してお待ちしております！

ご予約・お問い合わせ先は  
 JCHO仙台南病院 健康管理センター  
 電話022-306-1721 (直通)



～検診後のティータイムに～  
 ささやかなプレゼントをご用意してお待ちしております



## 【新型コロナウイルス ワクチン先行接種の報告】

薬剤部 鈴木 英則

新型コロナウイルスの感染収束のカギを握るとされるワクチン。日本政府は、令和3年2月14日、アメリカの製薬大手「ファイザー」が開発したワクチンが承認されたと発表しました。ただ、異例の短期間で、ワクチン開発が進められていることもあって、課題は少なくありません。当院では2月18日に入荷し翌19日から医療従事者としての先行接種が始まりました。今回の他の医療従事者より早い先行接種の意義は安全性などのデータを厚労省に提出し安全性を確立することです。そのデータを踏まえて今後は他の医療従事者、高齢者接種にステージは移ります。

今回供給された「ファイザー」製ワクチンの特徴は

1. 低温で保管しなくてはならない。
2. 解凍に通常の冷蔵庫で3時間必要（更に常温にするため30分必要）。
3. 解凍後、希釈したワクチンは6時間以内に使用しなければならない。
4. ローデッドスペースタイプという特殊な注射器を使うと1瓶で6回分が採取できる。
5. 接種後アナフィラキシー症状を確認するため15分～30分の接種場所での待機が必要。
6. かなりの確率で倦怠感、頭痛などの副反応が起こる。



現在、今後の接種をどこで行うかが論議されています。個人的に問題になると思うのが5.の接種後30分間フィジカル・ディスタンス（物理的距離）を保ちながら待機場所を確保しなければならないことと、6.の副反応が出た時に診療を行い予防接種健康被害救済制度を患者が申請できるよう説明し診断書などの申請書類をひとりずつ作成しなければならないことが想像できます。

成立した改正予防接種法で、費用は、全額国が負担つまり無料にしたうえで、国民に接種を勧めるとしています。国民には「努力義務」＝接種するよう努めなければならないとしていますが、政府は最終的には「ひとり一人が自分で判断して決めること」としています。

国には、国民が適切に判断できるよう、安全性や有効性のデータなどをわかりやすく説明することが改めて求められます。ワクチン接種の判断は、通常その有効性とリスクを比較して行われます。しかし、新型コロナウイルスの場合、これだけ世界の社会・経済活動に大きな影響が出ていることから、安全性を確保しながら、迅速に施行することも同時に重要な要素になっています。こうした、これまで経験のない難しい対応・判断を、政府にも国民にも求められることとなります。国民が混乱なく冷静にワクチン接種に向き合うことができるよう、まだ見えていないリスクはどれ程あるのか、少しでも明らかにしていくことが求められているため私たちJCHO職員は率先して今回の接種を受け入れ、健康調査に協力してまいります。

### 患者様のご紹介について



いつも当院へご紹介いただきまして、ありがとうございます。  
ご紹介、ご予約は直接地域連携室(直通:022-306-1740)でお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください。  
なお、午後外来は多少時間がかかりますので、お急ぎではない患者様については、午前外来をお勧めしております。



発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番地 代表TEL022-306-1711・FAX022-306-1712  
地域連携室 直通TEL022-306-1740・FAX022-306-1741